

勝鹿の真間の娘子が墓に過る時に、
山部

宿禰赤人の作る歌一首并せて短歌

四三一番

古いにしへに ありけむ人の 倭文機しつはたの 帯解おびとき替かへて
廬屋いせや立て 妻問つまどひしけむ 勝鹿かつしかの 真間ままの手児名てこな
が 奥おくつきを こことは聞きけど 真木まきの葉はや 茂しげ
りたるらむ 松まつが根ねや 遠とほく久ひさしき 言ことのみも
名なのみも我われは 忘わすらゆましじ

反歌

四三二番

我われも見みつ 人ひとにも告つげむ 勝鹿かつしかの 真間ままの手児名てこな
が 奥おくつき処ところ

四三三番

勝鹿かつしかの 真間ままの入江いりえに うちなびく 玉藻たまも刈かりけ
む 手児名てこなし思おもほゆ